

第1回  
(平成23年度)

# 横浜市男女共同参画貢献表彰 受賞者決定！！

横浜市において、男女共同参画社会の実現に向けて積極的に取り組み、身近な地域などで地道な活動を積み重ね貢献してきた方々に対し、その活躍を称え「横浜市男女共同参画貢献表彰」として、市長から表彰させていただくこととなりました。

横浜市男女共同参画審議会の審議の結果、第1回目の受賞者が決定しました。

## ■ 功労大賞(個人1名・団体3団体) ※敬称略・分類ごと五十音順

横浜市において男女共同参画社会の形成に向けた気運の醸成に顕著な功績のあった個人・団体、又は実践的な活動を積み重ね男女共同参画の推進に貢献されてきた個人・団体を表彰します。

分類	氏名・団体名	功績・活動等
個人	ありま まき こ 有馬 真喜子	女性の人権保障や地位向上における横浜市への貢献、国際的な活躍
団体	特定非営利活動法人 かながわ 女のスペースみずら	多大な相談実績によるDV被害等困難な状況にある女性の救済への貢献
団体	特定非営利活動法人 じょせい いえ 女性の家サーラー	多言語相談等による、外国籍女性の救済と人権擁護への貢献
団体	社会福祉法人 れいはいかい 礼拝会	長年にわたる困難な状況にある女性の保護、産前産後の母子救済への貢献

## ■ 推進賞(個人2名・団体1団体) ※敬称略・分類ごと五十音順

横浜市において、先駆的、実践的な活動により今後の男女共同参画社会の推進者として活躍が期待される個人・団体を表彰します。

分類	氏名・団体名	功績・活動等
個人	とやま かおる 外山 薫	地域における男女共同参画 (防災の地域づくり)
個人	はた よしこ 秦 好子	女性の視点からの防災活動の推進
団体	特定非営利活動法人 びーのびーの	地域における男女共同参画 (子育て環境づくり)

## 表彰式・記念講演会

参加者募集  
先着200名  
《事前申込制》

【日時】平成24年 3月 6日(火) 【会場】男女共同参画センター横浜(戸塚)

第1部 13時15分～ 表彰式(林 文子市長より表彰状の贈呈)

第2部 13時50分～ 記念講演会『私らしく生きる・主人公たちへのエール』

(講師:池田理代子氏(劇画家・声楽家))

※2月13日よりEメール(sh-danioseminar@city.yokohama.in)又はFAX(045-663-3431)にて受付

お問い合わせ先

市民局 男女共同参画推進課長 宮口 郁子 Tel 045- 671 -3691

## 第1回（平成23年度）横浜市男女共同参画貢献表彰受賞者

### 功労大賞

#### 【個人】

#### 1 ありま まきこ 有馬 真喜子

長年にわたり、横浜市、日本、国際的な女性の人権保障や地位向上に貢献。ジャーナリスト、国連婦人の地位委員会日本代表、世界人権会議日本政府代表等として、国際的な女性の人権問題に関与し活躍。横浜市においては、横浜市男女平等社会推進協議会の委員等をつとめ、横浜における男女共同参画の推進に大いに貢献。初代横浜女性フォーラム館長。元横浜市女性協会理事長。現 UN Women（国連女性機関）日本国内委員会理事長。

#### 【団体】

#### 2 おんな 特定非営利活動法人 かながわ 女のスペースみずら

「女性による、女性のためのなんでも相談」として、DV（配偶者等からの暴力）や、心の悩み、子育ての悩み等を抱える女性からの相談に対応。被害者救済のための緊急一時保護施設（シェルター）を常設し、女性や母子を受け入れ、行政機関と連携して自立に向けた支援を実施。困難な状況にある女性の救済と地位向上に貢献。

#### 3 じょせい いえ 特定非営利活動法人 女性の家サーラー

英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語、タガログ語による多言語相談（多言語ホットライン）を実施。人身取引被害者、DV被害者など困難性が高い場合においても、国籍を問わず、母国語による相談支援、弁護士等の紹介、医療機関への同行、緊急一時保護施設（シェルター）への受入などを実施。日本の社会の中で十分には支援が届きにくい外国籍女性の人権擁護に貢献。

#### 4 れいはいかい 社会福祉法人 礼拝会

長年にわたり、様々な理由から行き場を失った女性と子どもの保護と支援を継続。横浜市で初めて女性のための緊急一時保護施設（シェルター）を開設し、横浜市における困難な状況の女性と子どもの保護や、特に、妊娠中および産後の母子を受け入れ、安心できる環境で出産、自立ができるよう産前産後の母子の救済に貢献。

裏面あり

## 推進賞

### 【個人】

#### 1 とやま かおる 外山 薫

「金沢区災害ボランティアネットワーク」の設立に尽力し、女性や子どもたちが参画しやすい防災まちづくり活動を実践。東日本大震災の発生後は、被災地の女性や子どもたちの状況を地元地域に伝え、子どもの衣類・おもちゃなどを被災地へ送る支援活動や、「金沢区発ボランティアバス」を実施するなど支援の輪を地元地域に広げた。今後も防災の地域づくりに女性・子どもの視点で参画し、地域の災害ボランティア活動を大いに盛り上げ、地域における男女共同参画を推進することに期待。

#### 2 はた よしこ 秦 好子

全国女性消防吏員草創期の一人。その後、JFFW（全国的女性消防職員ネットワーク）を創設し、全国の仲間とともに、消防分野における男女共同参画の機運を牽引。東日本大震災の際は、いち早く横浜から被災地にボランティアバスを送り、被災地の子ども・女性を支援する活動を開始。数十回にわたる講演会、シンポジウム等で、被災地における女性の窮状や女性による復興の力を伝え、「女性の視点からの防災活動の重要性」を発信し続けている。

### 【団体】

#### 3 特定非営利活動法人 びーのびーの

港北区において、地域のつながりの中で安心して子育てをしたいと、当事者である母親たちが商店街の空き店舗で「おやこの広場」を開始。国の事業のモデルとなって、全国の地域子育て環境づくり活動を牽引。その後『幼稚園・保育園ガイド』の発行や『地域と連携した学生による子育て支援事業』など事業を発展させ、母親たちによる自らの経験を生かしたコミュニティビジネスとしても確立させる。個々の家庭の問題であった「育児」を、地域社会全体で支える仕組みづくりを続けている。